

氏名 安武 敦子	役職 教授	専門分野 建築計画・ハウジング
1. 主な研究テーマ 建築学の建築計画をベースとしながら地域計画までを範囲としています。人口減少などの社会問題に対して建築空間がどうあるべきか、統計や史資料の調査、フィールドワークを行いながら、建物や都市の成り立ちを理解し、新たな居住像・地域像・都市像を提案します。調査対象は長崎という地勢を活かして離島や斜面地の他、戸建て住宅や産業都市を対象に取り組んでいます。 また歴史的な建造物や景観の継承についても研究を行っています。 これらの研究は建築学にとどまらないため、社会学や民俗学の研究者らと共同で行っているものもあります。大学内の地域文化研究会のメンバーとしても活動しています。 ① 人口減少下における住宅地の更新や縮退プロセスのデザイン 日本全体で住戸数が世帯数を超え、人口減少のなか空き家問題や都市の縮小の問題はますます大きくなっています。密度の低い都市環境の活用や都市を縮小するデザインを考えなくてはなりません。 研究室では人口減少の先進地として炭鉱都市を調査しています。九州では 1960 年代に多くの炭鉱が閉山し、労働者の転出による人口減少が進みました。閉山後の施策と効果を検証しながら、都市の再編のあり方を研究しています。この研究をベースとしながら、居住が不利な地域として、離島や斜面地、また子世代が巣立つと高齢化や空き家の課題が生じる郊外戸建住宅地も対象にしています。 斜面地では実証実験として空き家をシェアハウス化し、学生の地域運営への参加の可能性を検証しています。ほかにも斜面を活かしたアクティビティを仕掛けて、その反応を検証しながら新しい居住像を模索しています。 ② 災害後の住環境 昨今、災害が頻発しています。日本では災害後、自宅に住むことが困難になると仮設住宅が用意されます。仮設住宅のなかでも建設型仮設住宅の住環境について居住者へのアンケートや行動調査を行い、環境移行の負担軽減や交流の創出を目指して、課題の抽出や課題解決に向けた提案を行っています。 ③ 負の遺産の保全 戦災や自然災害の遺構を、市民の教材として、観光資源としてまちづくりの観点から評価するため、遺構が残された経緯や、現在の活用実態を調査し、課題を抽出しています。採算の取れる観光資源にはなりにくいため、新たな評価手法を検討しています。 長崎市は最後の被爆地であることから戦災復興の足跡を追いながら、戦後復興で建設された魚の町団地を検証して、戦後の日本における住まいの復興の考えをトレースし、現代での汎用性を考察しています。		
2. キーワード ハウジング、地域計画、災害復興、歴史的建造物		
3. 特色・研究成果・今後の展望等（社会実装への展望・企業へのメッセージもあれば） 将来的には空き家・空きビルをポジティブに捉えた活用や運用→旧県営魚の町団地の民間活用や建築史的評価。 歴史的建造物や災害遺構など負の遺産の保全や積極的な観光化→観光化のハードルの整理 researchmap : https://researchmap.jp/yasutake8528521 研究室 HP: https://www.st.nagasaki-u.ac.jp/laboratories/yasutake/		